

エコアクション21

環境経営レポート

2023年度版
(2023年4月～2024年3月)



2024年5月22日発行

新生ビルメンテナンス株式会社

目 次

1.組織の概要	1
2.認証登録の対象組織・活動	3
3.実施体制	3
4.環境経営方針	4
5.環境経営目標	5
6.環境経営計画	7
7.環境経営目標の実績	8
8.環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容	9
9.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	11
10.代表者による取組状況の評価及び見直し・指示の結果	12

1.組織の概要

(1)名称及び代表者名

新生ビルメンテナンス株式会社
代表取締役社長 園田 繁博

(2)所在地

本 社 :福岡県久留米市宮ノ陣4丁目30番1号
佐賀支店 :鳥栖市古野町657-4
倉庫棟(クリーンサービス詰め所) :久留米市宮ノ陣3丁目1616番15

(3)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者:田中 昌 清掃事業部 次長
担当者:棚町 友則 設備事業部係長
TEL 0942-35-5552 FAX 0942-37-0552 E-mail sbm@sweet.ocn.ne.jp

(4)事業内容

建築物環境衛生総合管理業
一般廃棄物収集運搬業:一般廃棄物(久留米市第1032) 一般廃棄物(筑後市)
産業廃棄物収集運搬業(福岡県04000006595)



URL: <http://www.sinsei-bm.com/>

(5)事業の規模

売上額 768百万円(2023年度)

区分	本社	佐賀支店※	倉庫棟 (クリーンサービス詰め所)
従業員(人)	185	無人	7
延べ床面積(m ²)	900	31	111

(6)事業年度

4月1日～翌3月31日

(7)法人設立年月日

1987年5月14日

(8)資本金

1,000万円

2. 認証・登録の対象組織・活動

・エコアクション21の認証・登録範囲は、以下のとおりで全組織・全活動を対象としています。

(1) 認証・登録事業者

新生ビルメンテナンス株式会社

(2) 対象事業所

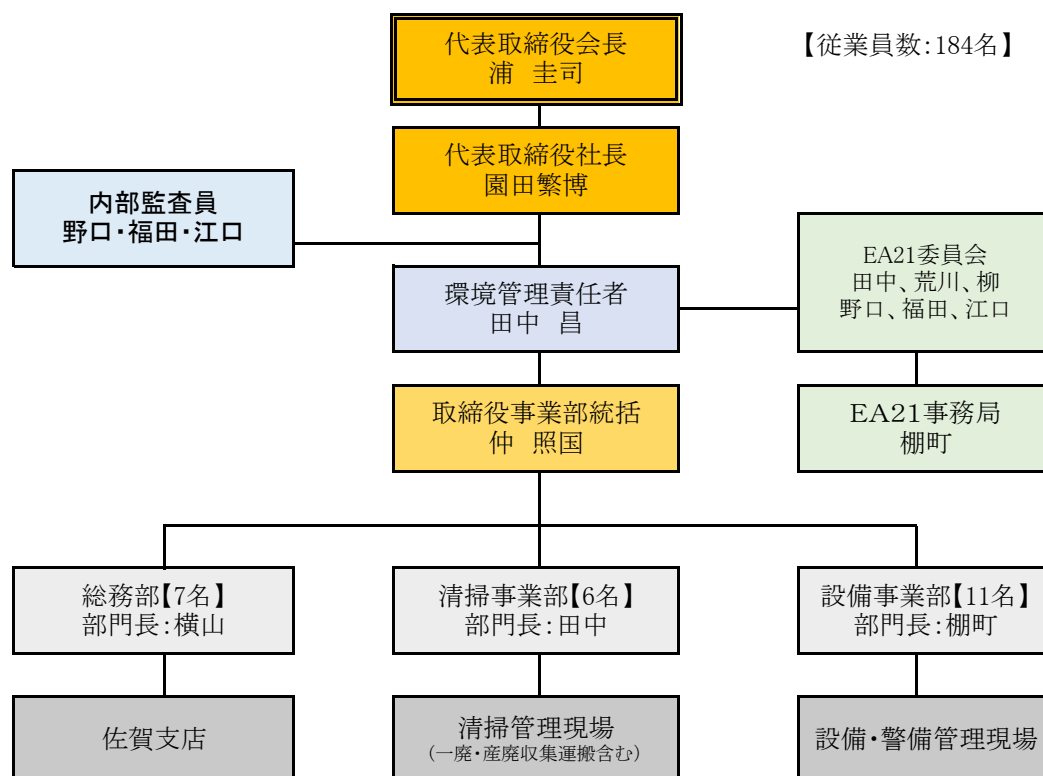
本 社、佐賀支店、倉庫棟(クリーンサービス詰め所)

(3) 対象事業活動

建築物環境衛生総合管理業、一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業

3. 実施体制

・エコアクション21の実施体制は、現在の業務組織体制を基本に、以下のように構築しました。
・代表者が任命し全体を統括管理する「環境管理責任者」と、取組状況を定期的に確認・評価し、問題が発生した場合には是正処置を検討する「EA21委員会」、そしてこれらの組織をサポートする「EA21事務局」を配置して、環境経営システムを運用しています。



4.環境経営方針

新生ビルメンテナンス株式会社は、建物の総合管理会社として、建物内で仕事をされるお客様、及び建物を利用される人々の住環境整備に努め、快適な環境を提供することを通じて、社会に貢献しています。

今後も建物のオーナー及び建物に関係する全ての人々が満足して頂けるよう、お客様第一主義にそって、誠心誠意、業務に精励し、建物の財産の維持、管理、保全業務に邁進します。あわせて、地球環境の保全が人類共通の重要事項の一つであることを認識し、環境保全への取り組みを経営の最重要課題の一つとして、環境経営の継続的改善に努めます。

1. 次の事項に重点的に取り組みます。

- ①車両のエコドライブの推進や電気の省エネルギーの推進により二酸化炭素排出量を削減します。
- ②廃棄物の適正処理及びリサイクルに努め廃棄物排出量を削減します。
- ③こまめに蛇口の開閉を行い水使用量の削減を行います。
- ④化学物質の適正管理に努めます。
- ⑤環境負荷の少ない商品の購入と効率的使用を推進します。
- ⑥お客様に対して省エネルギーに関する商品提案を行います。
- ⑦新入社員へのエコアクション21研修を実施します。

2.関係する環境関連法規を遵守します。

3.地域貢献活動を邁進していきます。

2015年2月16日制定

2023年6月1日改訂

新生ビルメンテナンス株式会社

代表取締役 園田 繁博

5.環境経営目標

- ・環境経営目標は、当社の事業活動に伴う環境負荷を踏まえて、以下に示す8項目の目標を設定しました。
- ・負荷削減項目の目標は、これまでソフト、及びハード面の対策は実施済みの為、全社については2019年度実績値を基準に、このレベルの維持を目指します。
- ・2024年度以降の目標は次のページに示すとおりである。

環境経営目標	単位	サイト区分	基準年	目標		
			2019年度実績 (2019.4~2020.3)	2021年度 (2021.4~2022.3)	2022年度 (2022.4~2023.3)	2023年度 (2023.4~2024.3)
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	全社	80,205	80,205	80,205	80,205
(1)電気使用量の削減	kWh	本社 CS	32,464	32,464	32,464	32,464
			3,579	3,579	3,579	3,579
(2)ガソリン使用量の削減	L	全社	21,740	21,740	21,740	21,740
(3)軽油使用量の削減	L	全社	5,085	5,085	5,085	5,085
2 一般廃棄物排出量の削減	kg	本社	860	860	860	860
3 水使用量の削減	m ³	本社 CS	239	239	239	239
			163	163	163	163
4 化学物質の適正管理	-	全社	-	-	SDSによる適正使用・管理に努める	
5 グリーン購入の推進	品目数	本社	8	8	8	8
6 省エネルギー商品の提案	件	本社	11	13 (毎年1件の増加)	14 (毎年1件の増加)	15 (毎年1件の増加)
7 新入社員へのエコアクション21研修を実施	回	全社	6	6 (2月に1回)	6 (2月に1回)	6 (2月に1回)
8 地域貢献活動の推進	回	本社	12	12 (月平均1回)	12 (月平均1回)	12 (月平均1回)

備考：・全社とは本社とCS詰所を合わせた数値と示す。

- ・二酸化炭素排出量の計算に用いた購入電力の排出係数は本社は、やめエネルギー(株)2019年度調整排出係数(0.494kg-CO₂/kWh)とし、CS・佐賀支店は、九州電力(株)2019年度調整後排出係数(0.370kg-CO₂/kWh)を用いた。

5.環境経営目標

環境経営目標	単位	サイト区分	基準年	目標		
			2022年度 実績 (2022.4~2023.3)	2024年度 (-0.5%)	2025年度 (-1%)	2026年度 (-1.5%)
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	全社	72,726	72,362	71,999	71,635
(1)電気使用量の削減	kWh	本社 CS	26,603	26,469	26,337	26,204
			3,485	3,467	3,450	3,433
(2)ガソリン使用量の削減	L	全社	20,619	20,516	20,413	20,310
(3)軽油使用量の削減	L	全社	4,963	4,938	4,913	4,888
2 一般廃棄物排出量の削減	kg	本社	907	902	898	893
3 水使用量の削減	m ³	本社 CS	173	172	171	170
			156	155	154	154
4 化学物質の適正管理	-	全社	-	SDSによる適正使用・管理に努める		
5 グリーン購入の推進	品目数	本社	8	8	8	8
6 省エネルギー商品の提案	件	本社	32	33 (毎年1件の増加)	34 (毎年1件の増加)	35 (毎年1件の増加)
7 新入社員へのエコアクション21研修を実施	回	全社	6	6 (2月に1回)	6 (2月に1回)	6 (2月に1回)
8 地域貢献活動の推進	回	本社	12	12 (月平均1回)	12 (月平均1回)	12 (月平均1回)

備考：・全社とは本社とCS店舗を合わせた数値と示す。

・二酸化炭素排出量の計算に用いた購入電力の排出係数は本社は、やめエネルギー(株)2022年度調整排出係数(0.277kg-CO₂/kWh)とし、CS・佐賀支店は、九州電力(株)2022年度調整後排出係数(0.462kg-CO₂/kWh)を用いた。

6. 環境経営計画

・環境経営目標を達成するために、以下のとおり具体的な活動項目と責任者、担当者を決めて取り組みました。

1. 二酸化炭素排出量の削減 (責任者： 荒川)

取組目標	サイト区分	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 電気使用量の削減	全社	① エアコン設定温度を決め、実行する	荒川	冷房期:26℃ 暖房期:22℃
		② 使用していないパソコン電源を切る	荒川	通年
		③ 昼休みの時間の消灯	荒川	通年
		④ 照明器具、空調機フィルターの定期的な清掃	福田	6月、12月
(2) ガソリン使用量の削減	全社	① アイドリングストップ	志岐	通年
		② 急発進・急加速・急減速の禁止	志岐	通年
		③ 不要な荷物は積まない	志岐	通年
		④ タイヤの適正確認チェック (1ヶ月 1回)	志岐	通年
		⑤ 目的地のルート事前確認	志岐	通年
		⑥ カーエアコンの適正な使用	志岐	通年
		⑦ 早めのアクセルオフ	志岐	通年
(3) 軽油使用量の削減 (ダンプ、パッカー車)	全社	① アイドリングストップ	志岐	通年
		② 急発進・急加速・急減速の禁止	志岐	通年
		③ 不要な荷物は積まない	志岐	通年
		④ タイヤの適正確認チェック (1ヶ月 1回)	志岐	通年
		⑤ 目的地のルート事前確認	志岐	通年
		⑥ カーエアコンの適正な使用	志岐	通年
		⑦ 早めのアクセルオフ	志岐	通年

2. 一般廃棄物排出量の削減 (責任者： 荒川)

取組目標	サイト区分	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 一般廃棄物排出量の削減	本社	① 分別によるリサイクルの推進	田中	通年
		② コピー用紙の裏紙利用	田中	通年
		③ サイボウズによる紙使用の削減	田中	通年

3. 水使用量の削減 (責任者： 荒川)

取組目標	サイト区分	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 水使用量の削減	全社	① 今の使用量の維持(無駄な使用をしない)	中村	通年
		② 四半期に使用増減の確認	中村	通年

4. 化学物質の適正管理 (責任者： 荒川)

取組目標	サイト区分	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 化学物質の適正管理	全社	① SDSによる適正使用・管理に努める	野口	通年
		② 化学物質の使用量把握	野口	通年

5. グリーン購入の推進 (責任者： 荒川)

取組目標	サイト区分	活動項目	担当者	スケジュール
(1) グリーン購入の推進	本社	① グリーン相当事務用品の調査購入	中村	通年

6. 省エネルギー商品の提案 (責任者： 棚町)

取組目標	サイト区分	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 省エネルギー商品の提案	本社	① 省エネ商品の提案	棚町	通年

7. 新入社員へのエコアクション21研修を実施 (責任者： 田中)

取組目標	サイト区分	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 新入社員のエコアクション21研修を実施	全社	① アンケートの内容の説明	田中	通年
		② 節電、節水手順	田中	通年
		③ ゴミの分別について	田中	通年

8. 地域貢献活動の推進 (責任者： 荒川)

取組目標	サイト区分	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 地域貢献活動の推進	本社	① 事務所周りのゴミ拾い	岡村	通年

7. 環境経営目標の実績

- ・エコアクション21を運用した2023年度の環境経営目標達成状況は、以下のとおりです。
- ・本社で設定した8項目の目標の内、二酸化炭素排出量の削減、省エネルギー商品の提案、水使用量の削減、地域貢献活動の推進の4項目8目標で目標を達成できました。
- ・新入社員へのエコアクション21研修を実施では、参加人数が少なかった為、合同入社式が行われなかった為目標達成することができませんでした。
- ・今後も取組を徹底させて、全ての環境経営目標での達成を目指していきます。

環境経営目標	単位	サイト区分	基準年	2023年度 (2022.4～2023.3)		目標達成率	目標達成状況の判定
			2019年度実績 (2019.4～2020.3)	目標値	実績値		
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	全社	80,205	80,205	71,403	112%	○
(1)電気使用量の削減	kWh	本社	32,464	32,464	26,588	122%	○
		CS	3,579	3,579	3,672	97%	△
	(2)ガソリン使用量の削減	L	全社	21,740	21,740	19,099	114%
(3)軽油使用量の削減	L	全社	5,085	5,085	4,868	104%	○
2 一般廃棄物排出量の削減	kg	本社	860	860	1,013	85%	△
3 水使用量の削減	m ³	本社	239	239	158	151%	◎
		CS	163	163	155	105%	○
4 化学物質の適正管理	-	本社	-	-	SDSによる適正使用・管理に努める		○
5 グリーン購入の推進	品目数	本社	8	8	0	0%	-
6 省エネルギー商品の提案	件	本社	11	15 (毎年1件の増加)	26	173%	◎
7 新入社員へのエコアクション21研修を実施	回	全社	-	6 (2月に1回)	4	67%	×
8 地域貢献活動の推進	回	本社	12	12 (月平均1回)	12	100%	○

備考： ・達成状況判定区分 ◎:120%≦目標達成率 ○:100%≦目標達成率<120% △:80%≦目標達成率<100%
×:目標達成率<80% -:判定不可

- ・目標達成率の計算 削減目標の場合:目標÷実績×100、増加目標の場合:実績÷目標×100
- ・CS:クリーンサービス

8. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

- ・2023年度運用期間における環境への取組状況は、以下のとおりです。
- ・環境経営目標の未達成項目もありましたが、全体としては取組は適切に実施できました。
- ・次年度の環境経営計画は本年度と同様とし、本結果を踏まえ更なる取り組みを推進していきます。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	目標達成状況	活動項目	取組実施状況	取組の評価
(1) 電気使用量の削減	○ (本社)	① エアコン設定温度を決め、実行する	◎	<現状> ・本社電気量はエアコンの入れ替えにより大きく削減できています。 電気、ガソリンの使用量についてはこまめに消灯やエコドライブをおこない削減できています。 <今後> 設備機器による削減は概ね終了しました。こまめな節電を行い電気量の維持を行っていきます。
		② 使用していないパソコン電源を切る	○	
		③ 昼休みの時間の消灯	◎	
		④ 照明器具、空調機フィルターの定期的な清掃	○	
	○ (CS)	① エアコン設定温度を決め、実行する	○	
		② 使用していないパソコン電源を切る	-	
		③ 昼休みの時間の消灯	○	
		④ 照明器具、空調機フィルターの定期的な清掃	○	
(2) ガソリン使用量の削減 (ダンプ、パッカー、保冷車除く)	○ (全社)	① アイドリングストップ	○	
		② 急発進・急加速・急減速の禁止	○	
		③ 不要な荷物は積まない	○	
		④ タイヤの適正確認チェック(1ヶ月1回)	○	
		⑤ 目的地のルート事前確認	○	
		⑥ カーエアコンの適正な使用	○	
		⑦ 早めのアクセルオフ	○	
(3) 軽油使用量の削減	○ (全社)	① アイドリングストップ	○	
		② 急発進・急加速・急減速の禁止	○	
		③ 不要な荷物は積まない	○	
		④ タイヤの適正確認チェック(1ヶ月1回)	○	
		⑤ 目的地のルート事前確認	○	
		⑥ カーエアコンの適正な使用	○	
		⑦ 早めのアクセルオフ	○	

備考：・達成状況判定区分 ◎:120%≦目標達成率、○:100%≦目標達成率<120%、△:80%≦目標達成率<100%、
×:目標達成率<80%、-:判定不可
・実施状況判定区分 ◎:よく実施できた(定着)、○:概ね実施できた、△:実施できたが十分とは言えない、
×:不十分であった -:判定不可

2. 一般廃棄物排出量の削減

取組目標	目標達成状況	活動項目	取組実施状況	取組の評価
(1) 一般廃棄物排出量の削減	△ (本社)	① 分別によるリサイクルの推進	○	<現状> ・作業日報の電子化など少しづつ紙の使用量を削減できています。 <今後> ・電子化を進めて紙の使用の削減を行っていきます。
		② コピー用紙の裏紙利用	○	
		③ サイボウズによる紙使用の削減	○	

3. 水使用量の削減

取組目標	目標達成状況	活動項目	取組実施状況	取組の評価
(1) 水使用量の削減	◎ (本社)	① 今の使用量の維持(無駄な使用をしない)	◎	<現状> ・水の排出量の削減は、手洗いを自動水栓にしたことと各人の活動項目が遵守できていることが要因と思われる。 <今後> ・二酸化炭素排出量削減と同様に水の使用量削減の活動項目を遵守していく。
		② 四半期に使用増減の確認	◎	
	○ (CS)	① 今の使用量の維持(無駄な使用をしない)	○	<現状> ・水の排出量の削減は、手洗いを自動水栓にしたことと各人の活動項目が遵守できていることが要因と思われる。 <今後> ・二酸化炭素排出量削減と同様に水の使用量削減の活動項目を遵守していく。
		② 四半期に使用増減の確認	○	

4. 化学物質の適正管理

取組目標	目標達成状況	活動項目	取組実施状況	取組の評価
(1) 化学物質の適正管理	○ (全社)	① SDSによる適正使用・管理に努める	○	<現状> ・棚卸にて管理できている。 <今後> ・適正使用・管理に努める。
		② 化学物質の使用量把握	○	

5. グリーン購入の推進

取組目標	目標達成状況	活動項目	取組実施状況	取組の評価
(1) グリーン購入の推進	- (本社)	① グリーン相当事務用品の購入推進	○	<現状> ・多くの事務所備品がグリーン購入に切り替えているため新規の購入できなかった。 <今後> 次年度も継続して実施していく。

6. 省エネルギー商品の提案

取組目標	目標達成状況	活動項目	取組実施状況	取組の評価
(1) 省エネ商品の提案	◎ (本社)	① 省エネ商品の提案	○	<現状> ・提案件数の目標16件に対し、26件提案を行った。 <今後> ・省エネルギー商品の提案増が売上に繋がることを意識して、目標を超える提案を継続する。

7. 新入社員へのエコアクション21研修を実施

取組目標	目標達成状況	活動項目	取組実施状況	取組の評価
(1) 新入社員のエコアクション21研修を実施	× (全社)	① アンケートの内容の説明	○	<現状> ・7月、3月実施することができなかった為未達成 <今後> ・入社式時の研修を実施する。
		② 節電、節水手順	○	
		③ ゴミの分別について	○	

8. 地域貢献活動の推進

取組目標	目標達成状況	活動項目	取組実施状況	取組の評価
(1) 地域貢献活動の推進	○ (本社)	① 事務所周りのゴミ拾い	○	<現状> ・月1回事務所周辺のゴミ拾い及び除草の清掃活動を実施した。 <今後> ・全員での取り組みを継続する。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

- ・当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

環境関連法規	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	産業廃棄物処理業の許可	○
	産業廃棄物処理基準	○
	処理困難の通知	○
	処理困難の通知の保管	—
	再委託の禁止	—
	帳簿の管理	○
	産業廃棄物管理票の送付義務	○
	産業廃棄物運搬受託者の管理票保管義務	○
	虚偽の管理票の交付等の禁止	○
	管理票無しでの受託の禁止	○
	処理終了後の報告	○
	報告の徴収	○
	事業者の産業廃棄物の運搬、処分の基準	○
	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	長期間使用での廃棄物となることを抑制する
排出する場合運賃の料金の支払いに応じる		○
使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	長期間使用する。	○
	再資源化等の実施に配慮した自動車を選択する	○
	使用済となった自動車を取業者への引き渡し	○
	車両のリサイクル料金を支払い	○
毒物及び劇物取締法	貯蔵所には盗難防止のために鍵を掛ける	○
	貯蔵容器には「医薬用外」と白地に赤で「劇物」の文字を表示	○
	保健衛生上の危害が生じる恐れがある時は保健所	—
	警察署又は消防署に届け出ると共に応急措置	—
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	エアコンの簡易点検の実施	○
	廃棄者及び譲渡者の責務	—
	廃棄等実施者の引渡義務	—
	廃棄等実施者による委託確認書の交付	—
	引取証明書	—

備考) 遵守状況判定区分 ○:遵守 ×:不遵守 —:該当なし

10.代表者による取組状況の評価及び見直し・指示の結果

- ・2023年度運用期間の運用結果に対して、2024年4月27日に代表者による取組状況の全体評価と現計画の見直しを行いました。
- ・取組状況については、環境経営目標の達成状況は概ね良好な結果となり、策定した活動項目は適切に実施されており、今後も継続するとしました。
- ・環境経営システムの運用も少しずつだが出来つつあると評価し、今後も積極的にPDCAを廻して問題解決・改善に当たるよう指示しました。
- ・今後の見直しとしては、新ガイドライン2017年版の要求事項に対して、主要計画(環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画)の適合性を検討し、現計画の見直しが必要かどうかを検討します。

評価	<p>環境への取組は適切に実施されているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針で誓約したことが実行されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理委員会で環境への取り組みは毎月確認できており適切に運用ができています。
	<p>環境経営システムが有効に機能しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その場の取組ではなく、決められたルールに基づいて行動しているか ・目標を明確にし、取組の結果を評価しているか ・役割、責任等を定め、全員で取組んでいるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境目標の達成状況の四半期毎の評価を本委員会で実施できている。 ・新入社員への環境についての取り組み研修はコロナ渦により予定通りには実施できなかったがエコアクションの取り組みに対する意識向上アンケートを定期的に配布し環境に対する意識は定着しつつあると思われる。
見直し(変更の必要性と指示)	<p>環境経営方針 変更の必要性(○有 ●無)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主要計画(環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画)はこのまま継続するとし、併せて新ガイドライン2017年版の改訂ポイントをよく理解し、推進していく。 ・実施体制については今後体制の変化に応じて変更を加える。 ・グリーン購入については新しい商品がないため、今後は現状を維持する方向で検討する。その他については適宜評価されており特に問題は発生していない。 ・2017年版ガイドラインの改訂ポイントを委員会メンバーは理解した上でエコアクション21に取り組む。
	<p>環境経営目標・環境活動計画 変更の必要性(○有 ●無)</p>	
	<p>実施体制 変更の必要性(●有 ○無)</p>	
	<p>その他の環境経営システムの要素 変更の必要性(●有 ○無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷、取組の自己チェック ○環境関連法規等の取りまとめ ○手順書 ○教育訓練 ○環境コミュニケーション ●実施及び運用 ○緊急事態への準備と訓練 ○取組状況の確認と評価 ○問題点の是正処理 ○文書及び記録の作成整理 	